

ロボットプログラミング体験教室 開催報告

1. 開催日時：令和6年11月2日（土）9：30～16：30
2. 開催場所：尼崎商工会議所 701会議室
3. 参加者数：36名（当日キャンセル4名・途中退室1名）
学年 4年：12人、5年：13人、6年：10人
4. 開催の様子：



阪神ロボカップジュニア協議会
島谷会長より開会の挨拶



午前の部は、アイアンドティテック
㈱の田口様より、講演いただいた。



午後の部は、アイアコス・システム・プロ
ダクツ㈱の杉野様より、講演いただいた。



尼崎市立尼崎双星高校 情報技術部の生徒
より、プログラミングについて教わる様子



プログラミングで組み立てたロボ
ットで、ロボサッカーを行う様子



尼崎市立尼崎双星高校 藤井先生
からの講評

5. 内 容

【講演について】

午前の部では、アイアンドティテック㈱の田口様より、「プログラミングを使って防犯対策！」と題し、プログラミングを活用して防犯タグを作成し、そのタグを商品に付けることで、社会の安全性向上や店舗の売上向上につながる仕組みについて講演いただいた。

午後の部では、アイアコス・システム・プロダクツ㈱の杉野様より、「アプリケーションの作り方とその役割」と題し、プログラミングを活用することでどのような仕事に対応できるのか、また、プログラミングスキルを持つことでどのような業種に就職できるのかについて講演いただいた。

【体験について】

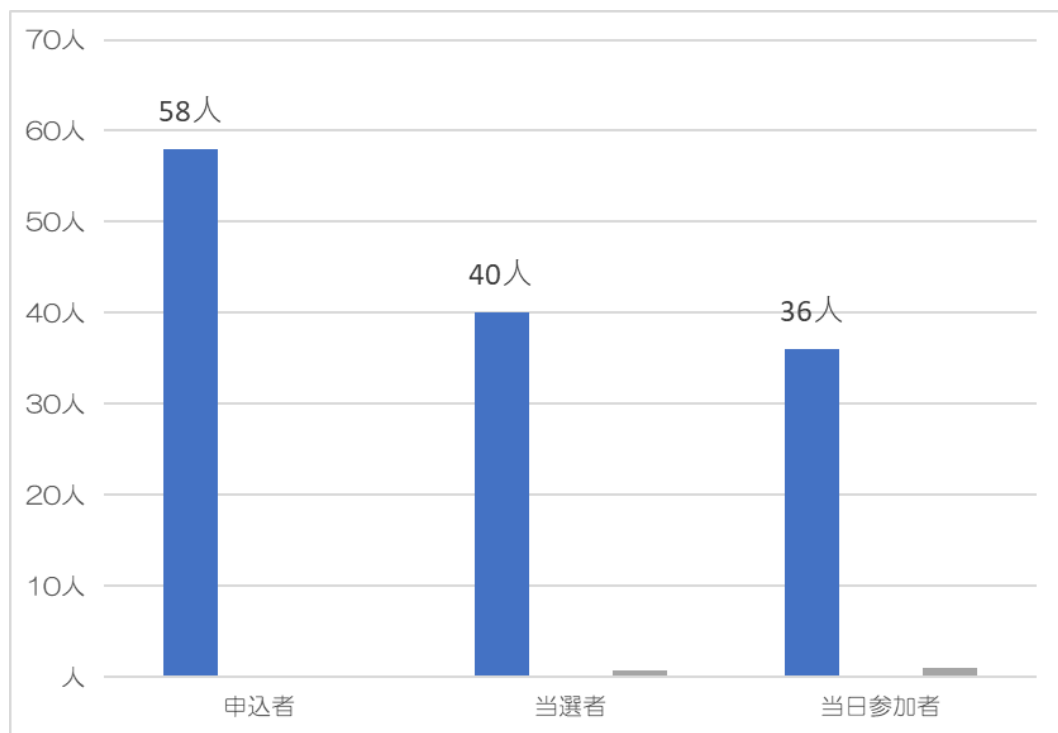
尼崎市立尼崎双星高校の藤井先生と情報技術部の学生が、小学生たちにプログラミング指導を行い、イー・ガジェットを使用してライントレースやラインセンサーを体験した後、実際にロボットを動かし、ロボサッカーを実施した。プログラミングがうまく組めてロボットを思い通りに動かせる場合もあれば、うまくいかない場合もあったが、失敗を通じて成長していく小学生たちの姿が見られた。

今年度の課題として、事業への取り組みやアンケート結果を昨年度と比較したところ、事業に関する満足度が減少していることが挙げられる。その要因として、講演内容でイメージしづらい部分があったことや、昨年度は2つの体験を実施していたのに対し、今年度は1つの体験のみとなったことが理由として考えられる。

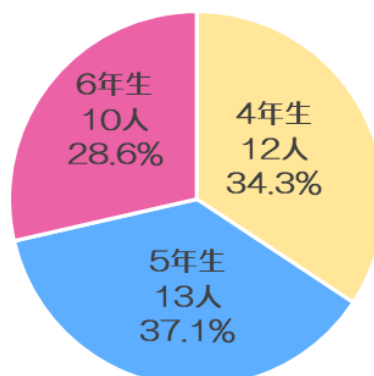
しかし、昨年同様に定員を上回る応募があったことや、イベントを楽しみにしていたという声から参加者から寄せられたこともあり、今後は申込者の増加や小学生の希望を事業内容に反映できるよう、体験内容の改善や工夫を検討する。

6. 応募者情報

① 応募件数及び当選率

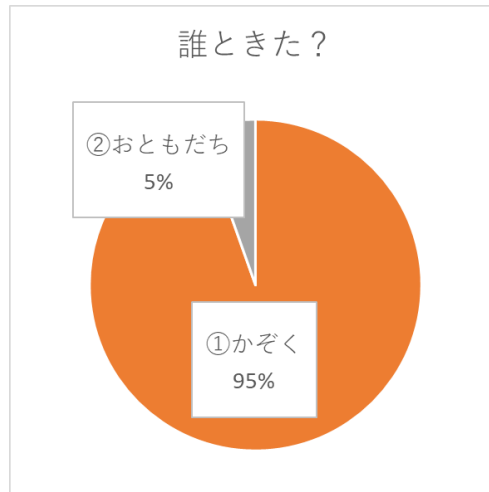


② 学年

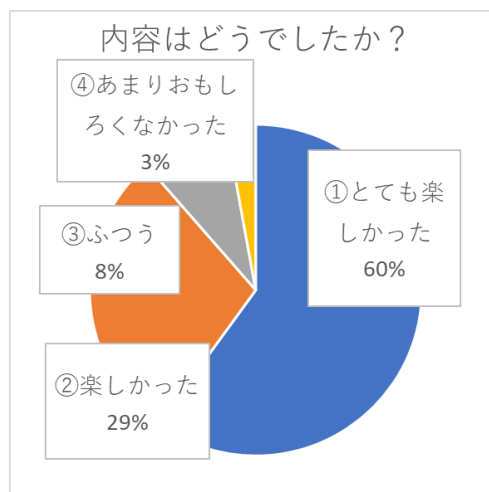


7. アンケート内容

① 誰ときた？



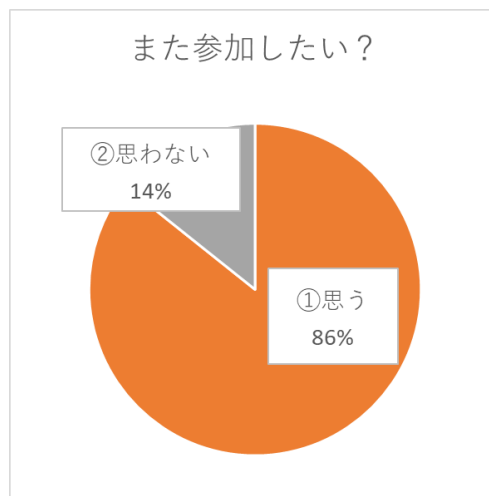
② 内容はどうでしたか？



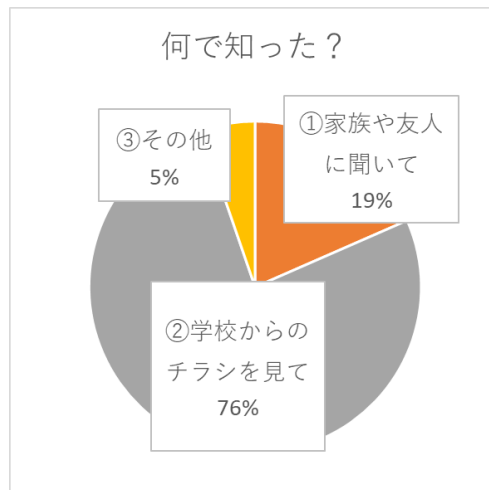
③ 今日の内容以外でプログラミングを使ってやりたいことはありますか？

・ アプリやゲームを作ってみたい	7 件
・ 車に色々な機能をつけたい	1 件
・ スクラッチでゲームを作ってみたい	1 件
・ バスケットロボットを作りたい	2 件
・ 自分の宿題を勝手にやってくれるようなロボットを作りたい	1 件
・ ドローンを操縦したい	1 件
・ 人間のようなロボットを動かしたい	1 件
・ 野球ロボットを作りたい	1 件
・ ロボットを作ってそのプログラミングで動かしたい	1 件

④ 同じようなイベントがあれば、また参加したいと思いますか？



⑤ 今回のロボットプログラミング体験教室は何で知りましたか？



以 上